

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500248		
法人名	有限会社 中島介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム すまいる (2F)		
所在地	静岡県熱海市福道町3番3号		
自己評価作成日	令和4年9月22日	評価結果市町村受理日	令和4年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ijyosyoCd=2295300095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年はコロナ対策を行ったうえで外出機会が持てるよう、ドライブレクで海岸にジャカランダの花を見に出かけたり、桜のお花見で湯河原の幕山公園や、熱海城など出かけることが出来ました。近年中止になっていた来宮神社のお祭りでの慰問も来ていただく事が出来ました。毎月の行事も季節感が持てるようデイルームの飾りを変え、少しでも楽しんで頂けるよう工夫してきました。行事については毎月のすまいる通信と一緒に写真も送るようにし、日々の様子を見て頂けるよう行いました。また面会についても一部制限解除ができ、直接お話ができることもありました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃の気づきを職員間で協議し、合議の末に購入が決まったクッションや歩行器が利用者のADL向上につながり、介護計画の説明に加えた時には家族から「全職員に感謝を」と称賛の言葉がもらえ職員全員で喜びを分かち合いました。また、年間計画に組み入れた外出をアクティビティ委員会が企画・実行し、コロナ禍でも花見や農場のアイスクリームに満面の笑みが咲く写真を「すまいる通信」に載せて報告し喜ばれています。書面開催が続く中、運営推進会議議事録に同封した返信用紙には必ずメンバーからの忌憚ない意見や助言が寄せられ、一つひとつを真摯に受け止めて満足度の高いサービスにつなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてはいつでも目に入るよう各階に掲示し、常に心得の一環として職員で共有するようにしています。	理念『一緒に、楽しく、笑顔で』を朝の申し送りで唱和し、毎月会議の冒頭で管理者が読み上げ浸透させています。また、「いつまでも笑顔でこの街に暮らし続ける」という願いが込められた理念にかなうケアができていないか接遇委員会でも振り返り、日々の業務に活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ですがお祭りの慰問を感染予防を行ったうえで来ていただく事が出来ました。また訪問理美容も引き続き行いましたが、昔から通っている美容院を希望される方には美容師に来ていただきました。	新型コロナ感染防止対策を講じつつ、滞っていたオカリナやフラダンスのボランティア訪問を再開する予定です。昨年は中止となった来宮神社例大祭『こがし祭り』が7月におこなわれ、山車が立ち寄り、天狗の慰問もあって久しぶりに活気ある熱海ならではの夏を体感しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、施設に来て頂く事や行事などに地域の方を招待する事が出来ず、地域の方々には活かしきれないのが現状です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス対策で、運営推進会議を書面開催で行っています。	書面開催として議事録を市介護保険課、地域包括支援センター、民生委員、家族に送付しています。事故報告と再発防止策を掲載して事業所運営の透明性確保に努め、同封した返信用紙に記載されたメンバーからの忌憚ない意見や助言を真摯に受け止めて改善への道筋としています。	年間計画に組み込む等、年6回の開催が定着することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所まで近いところもあり、市の担当者の方とは情報交換や相談等で行き来する機会が多く、十分連携は取れていると思います。	運営推進会議の報告には利用者の要望に沿った行事開催への評価や、より実践的な防災訓練へのアドバイス、新型コロナ感染防止対策に関する物資やクラスター発生時の職員の人員不足についての相談受け付け等が提示され、心強い支援体制があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のために玄関は鍵をかける事もありますが、各階に通じるドアの施錠はしていません。職員の見守りを徹底し、身体拘束ゼロの意識を全職員で高めている。身体拘束はしていません。	身体拘束廃止委員会議事録を職員に配付するとともに委員会での決定事項は申し送りや全体会議で周知徹底し、例外的三要件に該当する利用者はいません。毎月の会議でもヒヤリハットや事故報告、研修から挙がった課題を話し合い、拘束のないケアへの意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まだ外部研修には参加できていないため、社内研修において、虐待防止のための勉強会を定期的に行うようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	基本的には権利擁護・後見人制度は管理者が対応しています。後見人制度などは研修を通して職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には料金・重度化した場合における対応・看取りに関する指針(医療連携)・ケアに関する考え方や取り組みについて、時間をかけて説明し了解して頂いた上で、同意書に署名してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族にはどのような事でもお話しして頂けるよう連絡を密にとるように心がけています。いただいた意見や要望は、全体会議等で話し合って改善するようにしています。	面会解除の通知にタイムラグが生じているとの指摘から連絡手段を変更し、速やかに是正しています。詳細な事故報告と事業所での暮らしぶりがわかる写真を掲載した「すまいる通信」を心待ちにしている家族が多く、担当する職員も知恵を絞って紙面を作成しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員で個々に話し合う機会を作り、意見を聞くようにしています。又、職員の全体会議でも意見や要望を聞いている。職員の意見は、利用者のケアプランや運営に反映するようにしている。	業務上の問題点は職員間で協議し、改善・向上に向けた試みが為されています。また、職員の発案から購入が決まったクッションや歩行器がADLの向上につながり、介護計画の説明に添えた時には家族から「全職員に感謝を」と称賛の言葉があり、職員全員で喜びを分かち合いました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや向上心がもてるよう環境作りに努めています。資格習得支援制度も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加の機会がなくなっているため、施設内の研修を行っています。職員が働きながらお互いを高めあえるよう進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設部会・連絡協議会に所属し、困ったことや疑問点がある場合に相談し資質向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際の内容を職員で会議等を通じて理解するようにしています。本人の要望や不安を受け止められるよう十分に会話する機会を設け、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人との関係・苦勞・今までのサービス状況などを聞き、一緒に対応を考えています。特にご本人が在宅生活で行っていた趣味などは継続してできるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いを聞き必要ならば、地域包括支援センターや市役所、居宅介護支援事業所に連絡してサービスにつなげるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と職員で共同しながら穏やかな生活が送れるよう関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全体の様子は管理者が話しをしますが、日頃の様子は職員がご家族と話しをしています。緊急時はご家族に連絡するとともに役割を分担しながらご家族・本人・職員との関係性を築くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ予防対策をした上で、昔から通っていた美容院の方に来て頂いたり、家族付き添いの受診時は外食をしてくるなどできるだけ関係性が途切れないよう支援しています。	面会制限が解除となった折には家族や孫、知人の訪問があり、対面できる喜びをかみしめています。携帯電話の所持でいつでも家族とつながれる人や、遠方の家族に電話を取次いで息災を伝える人もいます。選挙には家族が付き添って投票に出かける人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるよう職員が調整役として対応しています。1日1回は皆さんで行える体操やアクティビティを行い、一人が孤立する事のないよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、介護などの相談に乗ったり、ケアについてのアドバイスをしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ、本人の思いを細かく把握できるように常にコミュニケーションを取るよう努め、希望や意向の確認に努めています。	「昔から〇〇が好きなので」と家族から寄せられる情報を取入れつつ、より深くその人を知れるよう居室担当を決め、毎日一緒に過ごす時間を作るようにしています。会議や申し送りでも管理者から促し、理念の「一緒に、楽しく、笑顔で」が日々のケアに生きるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者については、ご家族より詳しく話を聞くようにしています。又、本人から情報を引き出してこれまでの経過などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議の中で、利用者についての意見交換をして全職員で情報共有し、利用者の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良い生活ができるよう本人・家族の要望を聴いて調整できることは反映できるようにしています。日常のケアの中で話し合い定期的に介護計画を作成しています。申し送りや日報で全職員が把握できるようにし、変更が必要な場合は会議などで確認している	家族の要望を管理者が電話や面会で聴取後、計画作成担当と居室担当を交えて検討し、介護計画の原案としています。介護計画の目標やサービス内容をさらに理解した援助となるよう、今後はユニットリーダーや居室担当が介護計画に携わる機会を増やしていく考えです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個別記録に記載して口頭での申し送りをし、情報共有の徹底を図っています。計画の見直しが必要な場合は、会議内で確認し活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の希望や状況を確認して、事業所内外のサービスの調整をし、柔軟に支援できるように取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあり、消防・警察・市役所・地域包括支援センター・社会福祉協議会・ボランティア等に必要最低限の協力をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、入所前からのかかりつけ医や専門医での医療は継続して受診しています。基本的に定期受診は家族対応となっているが不可能な場合は、訪問介護に依頼して調整しています。	協力医に全員が変更しており、24時間対応可能な体制は夜勤職員にとって安心の存在となっています。月2回の訪問診療には管理者とリーダーが立ち合い、往診シートに結果を記録後、当日の申し送りにも記載し、体調管理はダブルチェックで情報漏れが無いよう留意しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携し、週に1回の訪問を実施しています。その際に日常の様子や状態を報告し、入居者の健康状態を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族と共に医療機関のソーシャルワーカーと連絡を取ります。面会時に医師や看護師と情報交換を行い、早期退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けた方針の確認をし、状態変化があるごとに、家族・医師・看護師と話し合いをしている。(本人の意思確認も含めて確認)必要時にカンファレンスを開催して終末期の方針を本人・家族と再確認している。	契約時には書面に基づいて説明し同意を得ています。体調変化には医師の判断を仰ぎ、本人や家族がどのように最期まで生活することを望むかを把握しています。この2年看取りの実績はありませんが、毎月の会議で看取りの研修や他施設での事例を取り上げて心構えを学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時などに備えて、応急手当ができるように訪問看護師より指導を受けて、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年2回事業所全体での防災避難訓練を実施しています。	日中・夜間想定を含め、デイサービスと合同で年2回の避難訓練を実施しています。消防署への通報訓練、緊急連絡網の検証と再編をはじめ、避難経路を参加職員で歩いて再点検したり、AEDの取り扱いについて消防署に依頼するなど、さまざまなメニューを盛り込んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心に利用者への言葉かけや対応について毎月職員会議で話し合いを持つようにしています。	接遇委員会では現場で起こり得る具体例を挙げて示し、職員が緊張感をもち人格を尊重した対応ができるよう意識づけています。管理者は「一緒に、楽しく～」の体現にあたり、「利用者への尊敬の気持ちを忘れないこと」を申し送りして伝達し、必要時には面談をおこなって省みしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人とのコミュニケーションを充実させ、思いや希望を確認して、できる限り実現できるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、できる限り個別対応を取り入れて柔軟に対応している。希望があれば希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時には女性はお化粧をしたり洋服選びをしたりと楽しまれています。日常生活の支援として、離床時の整髪・整容の支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理担当の職員がいます。職員は入所者の方と一緒にDルームにて食事をし、食事を楽しむ事で共有の意識が持てるようにしています。食事前の準備や下膳などは一緒に行うようにしています。	厨房職員による彩り豊かな食事は開設当初より定評があり、毎月の「すまいる通信」に掲載された写真を家族も楽しみにしています。利用者のリクエストに応えた「ラーメンの日」「マクドナルドの日」も目先が変わり好評を博しています。季節行事にはおやつ作りもおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は職員がすぐにわかるよう日報に記録し全職員が把握できるように申し送りをしている。水分摂取量は、24時間単位で記録を取っている。体重測定は毎月行い、必要時にかかりつけ医により血液検査を施行し栄養状態把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎週水曜日歯科衛生士に訪問して頂き口腔ケアを受けています。毎食後の口腔衛生に力を入れており、誤嚥・肺炎予防につながっています。口腔内についてもすぐに相談できる体制を整えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便、排尿のパターンは排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄を心がけている。排便がないときは、医師の指示のもと下剤を使用して便秘にならないよう支援している。また訪問看護師にも相談し対応しています。	排泄チェックシートでパターンをつかみ、日中はリハビリパンツで過ごしています。重度化しベッド上での交換が主となっても、座位保持が可能な人には体調に応じてトイレでの排泄を支援しています。便秘にはまず水分摂取から勧め、訪問看護師や医師に相談して指示を仰いでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルトを提供するなど食事やおやつは腸の活性に良い物を取り込んでいます。自然排便の意識を職員が共有しています。家族からの栄養補助食品や青汁も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を週2回に決めて入所者が習慣になるよう支援している。ただその日の入浴ができない場合や気分が乗らないなどの時は他の日に変更して入浴できるようにしています。	毎月「お風呂の日」を設定し、それぞれ好みの入浴剤が入った湯船につかり温泉気分になっています。重度化に伴いシャワー浴が6名と増えていますが、湯を張った浴槽から立ちのぼる湯気と、浴剤を入れた足湯でリラックスできる雰囲気を出しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく入眠できるよう日中の活動を多く取り入れて、夜間良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、入居の際に薬情報を確認し、全職員が周知できるようにしている。又、薬の目的や副作用などは薬局にカレンダー管理を依頼しているため、どの職員でもすぐに確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者とコミュニケーションをとる中で興味のある事や希望を聞き対応している。ご家族や在宅生活時の担当ケアマネからも情報を得て、個々に合わせた支援をすることに努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	まだその日の希望で出かけることはできませんが、ドライブレクとして計画的に行うようにしています。日頃は屋上で日光浴をしたり、花壇の花の水やりなど屋外に出られるように支援しています。	今年度は外出を年間計画に盛り込み、アクティビティ委員会が企画・実行しています。湯河原幕山の桜や熱海城、海岸沿いを彩るジャガランダの花を堪能し、大仁農場の芝桜見学でのアイスクリームに満面の笑みが咲いた様子を家族にも報告し、たくさんの謝意が届いています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は事務所で預らせて頂いています。希望時や必要時にはすぐに使えるよう対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在手紙のやり取りをされる方はいませんが、電話については希望される方には職員が代わりに対応しています。携帯電話をお持ちの方も数名います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節を感じて頂けるように毎月装飾を変えるようにしています。共用空間は生活に支障が無いようまた不快な思いをさせないよう掃除など十分気を付けて行っています。	デイルームは毎月入れ替えられる職員手作りのフェルト作品が華やかさを添えています。清掃専門職員がテーブルや手すり、トイレの床の除菌を徹底したうえ遅番職員も業務終了前に消毒をおこない、体温チェックや換気の回数も増やすなど、入念な感染症対策がおこなわれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性やADLを配慮し、決まった席を確保しています。長時間でもリラックスできる環境を整えるように工夫しています。必要に応じて席替えも行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族の協力の基で家具やベットを配置し、必要な物や使い慣れたものを持参していただいています。また生活の中で使い勝手が良い方法が見つければその都度、家具などの場所を変更しています。	家族や孫、入居前の写真を飾る人もありますが、一人ひとりの居室に写真コーナーが設けられ、行事ごとに映した思い出の数々が職員の手で紡がれています。母の日や敬老の日に、家族から贈られた花と一緒に収めた写真が誇らしげに飾られた部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が送れるよう、入居者の要望にはしっかりと耳を傾けて、よりよく改善できるように常に環境整備に取り組んでいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500248		
法人名	有限会社 中島介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム すまいる(3F)		
所在地	静岡県熱海市福道町3番3号		
自己評価作成日	令和4年9月22日	評価結果市町村受理日	令和4年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/1/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ji_gyosyoCd=229530095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年はコロナ対策を行ったうえで外出機会が持てるよう、ドライブレクで海岸にジャカランダの花を見に出かけたり、桜のお花見で湯河原の幕山公園や、熱海城など出かけることが出来ました。近年中止になっていた来宮神社のお祭りでの慰問も来ていただく事が出来ました。毎月の行事も季節感が持てるようデイルームの飾りを変え、少しでも楽しんで頂けるよう工夫してきました。行事については毎月のすまいる通信と一緒に写真も送るようにし、日々の様子を見て頂けるよう行いました。また面会についても一部制限解除ができ、直接お話ができることもありました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃の気づきを職員間で協議し、合議の末に購入が決まったクッションや歩行器が利用者のADL向上につながり、介護計画の説明に加えた時には家族から「全職員に感謝を」と称賛の言葉がもらえ職員全員で喜びを分かち合いました。また、年間計画に組み入れた外出をアクティビティ委員会が企画・実行し、コロナ禍でも花見や農場のアイスクリームに満面の笑みが咲く写真を「すまいる通信」に載せて報告し喜ばれています。書面開催が続く中、運営推進会議議事録に同封した返信用紙には必ずメンバーからの忌憚ない意見や助言が寄せられ、一つひとつを真摯に受け止めて満足度の高いサービスにつなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてはいつでも目に入るよう各階に掲示し、常に心得の一環として職員で共有するようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ですがお祭りの慰問を感染予防を行ったうえで来ていただく事が出来ました。また訪問理美容も引き続き行いましたが、昔から通っている美容院を希望される方には美容師に来ていただきました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、施設に来て頂く事や行事などに地域の方を招待する事が出来ず、地域の方々には活かしきれないのが現状です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス対策で、運営推進会議を書面開催で行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所まで近いところもあり、市の担当者の方とは情報交換や相談等で行き来する機会は多く、十分連携は取れていると思います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のために玄関は鍵をかける事もありますが、各階に通じるドアの施錠はしていません。職員の見守りを徹底し、身体拘束ゼロの意識を全職員で高めている。身体拘束はしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まだ外部研修には参加できていないため、社内研修において、虐待防止のための勉強会を定期的に行うようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	基本的には権利擁護・後見人制度は管理者が対応しています。後見人制度などは研修を通して職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には料金・重度化した場合における対応・看取りに関する指針(医療連携)・ケアに関する考え方や取り組みについて、時間をかけて説明し了解して頂いた上で、同意書に署名してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族にはどのような事でもお話しして頂けるよう連絡を密にとるように心がけています。いただいた意見や要望は、全体会議等で話し合って改善するようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員で個々に話し合う機会を作り、意見を聞くようにしています。又、職員の全体会議でも意見や要望を聞いている。職員の意見は、利用者のケアプランや運営に反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや向上心がもてるよう環境作りに努めています。資格習得支援制度も行っていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加の機会がなくなっているため、施設内の研修を行っています。職員が働きながらお互いを高めあえるよう進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設部会・連絡協議会に所属し、困ったことや疑問点がある場合に相談し資質向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際の内容を職員で会議等を通じて理解するようにしています。本人の要望や不安を受け止められるよう十分に会話する機会を設け、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人との関係・苦勞・今までのサービス状況などを聞き、一緒に対応を考えています。特にご本人が在宅生活で行っていた趣味などは継続してできるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いを聞き必要ならば、地域包括支援センターや市役所、居宅介護支援事業所に連絡してサービスにつなげるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と職員で共同しながら穏やかな生活が送れるよう関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全体の様子は管理者が話しをしますが、日頃の様子は職員がご家族と話しをしています。緊急時はご家族に連絡するとともに役割を分担しながらご家族・本人・職員との関係性を築くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ予防対策をした上で、昔から通っていた美容院の方に来て頂いたり、家族付き添いの受診時は外食をしてくるなどできるだけ関係性が途切れないよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるよう職員が調整役として対応しています。1日1回は皆さんで行える体操やアクティビティを行い、一人が孤立する事のないよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、介護などの相談に乗ったり、ケアについてのアドバイスをしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ、本人の思いを細かく把握できるように常にコミュニケーションを取るよう努め、希望や意向の確認に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者については、ご家族より詳しく話を聞くようにしています。又、本人から情報を引き出してこれまでの経過などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議の中で、利用者についての意見交換をして全職員で情報共有し、利用者の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良い生活ができるよう本人・家族の要望を聴いて調整できることは反映できるようにしています。日常のケアの中で話し合い定期的に介護計画を作成しています。申し送りや日報で全職員が把握できるようにし、変更が必要な場合は会議などで確認している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個別記録に記載して口頭での申し送りをし、情報共有の徹底を図っています。計画の見直しが必要な場合は、会議内で確認し活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の希望や状況を確認して、事業所内外のサービスの調整をし、柔軟に支援できるように取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあり、消防・警察・市役所・地域包括支援センター・社会福祉協議会・ボランティア等に必要最低限の協力をさせて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、入所前からのかかりつけ医や専門医での医療は継続して受診しています。基本的に定期受診は家族対応となっているが不可能な場合は、訪問介護に依頼して調整しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携し、週に1回の訪問を実施しています。その際に日常の様子や状態を報告し、入居者の健康状態を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族と共に医療機関のソーシャルワーカーと連絡を取ります。面会時に医師や看護師と情報交換を行い、早期退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けた方針の確認をし、状態変化があるごとに、家族・医師・看護師と話し合いをしている。(本人の意思確認も含めて確認)必要時にカンファレンスを開催して終末期の方針を本人・家族と再確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時などに備えて、応急手当ができるように訪問看護師より指導を受けて、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年2回事業所全体での防災避難訓練を実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心に利用者への言葉かけや対応について毎月職員会議で話し合いを持つようになっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人とのコミュニケーションを充実させ、思いや希望を確認して、できる限り実現できるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、できる限り個別対応を取り入れて柔軟に対応している。希望があれば希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時には女性はお化粧をしたり洋服選びをしたりと楽しまれています。日常生活の支援として、離床時の整髪・整容の支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理担当の職員がいます。職員は入所者の方と一緒にDルームにて食事をし、食事を楽しむ事で共有の意識が持てるようにしています。食事前の準備や下膳などは一緒に行うようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は職員がすぐにわかるよう日報に記録し全職員が把握できるように申し送りをしている。水分摂取量は、24時間単位で記録を取っている。体重測定は毎月行い、必要時にかかりつけ医により血液検査を施行し栄養状態把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎週水曜日歯科衛生士に訪問して頂き口腔ケアを受けています。毎食後の口腔衛生に力を入れており、誤嚥・肺炎予防につながっています。口腔内についてもすぐに相談できる体制を整えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便、排尿のパターンは排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄を心がけている。排便がないときは、医師の指示のもと下剤を使用して便秘にならないよう支援している。また訪問看護師にも相談し対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルトを提供するなど食事やおやつは腸の活性に良い物を取り込んでいます。自然排便の意識を職員が共有しています。家族からの栄養補助食品や青汁も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を週2回に決めて入所者が習慣になるよう支援している。ただその日の入浴ができない場合や気分が乗らないなどの時は他の日に変更して入浴できるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく入眠できるよう日中の活動を多く取り入れて、夜間良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、入居の際に薬情報を確認し、全職員が周知できるようにしている。又、薬の目的や副作用などは薬局にカレンダー管理を依頼しているため、どの職員でもすぐに確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者とコミュニケーションをとる中で興味のある事や希望を聞き対応している。ご家族や在宅生活時の担当ケアマネからも情報を得て、個々に合わせた支援をすることに努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだその日の希望で出かけることはできていませんが、ドライブレクとして計画的に行うようにしています。日頃は屋上で日光浴をしたり、花壇の花の水やりなど屋外に出られるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は事務所で預らせて頂いています。希望時や必要時にはすぐに使えるよう対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在手紙のやり取りをされる方はいませんが、電話については希望される方には職員が代わりに対応しています。携帯電話をお持ちの方も数名います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節を感じて頂けるように毎月装飾を変えるようにしています。共用空間は生活に支障が無いようまた不快な思いをさせないよう掃除など十分気を付けて行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性やADLを配慮し、決まった席を確保しています。長時間でもリラックスできる環境を整えるように工夫しています。必要に応じて席替えも行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族の協力の基で家具やベットを配置し、必要な物や使い慣れたものを持参していただいています。また生活の中で使い勝手が良い方法が見つければその都度、家具などの場所を変更しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が送れるよう、入居者の要望にははっきり耳を傾けて、よりよく改善できるように常に環境整備に取り組んでいます。		